

### 交流セッション3：香港の家族看護学の現状と課題：アジア圏での国際交流の推進

プランナー：法橋 尚宏

神戸大学大学院保健学研究科

Sharron SK Leung<sup>1)</sup>, 法橋 尚宏<sup>2)</sup>, 小林 京子<sup>2)</sup>, 河原 宣子<sup>3)</sup>, 永富 宏明<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>香港大学李嘉誠醫學院, <sup>2)</sup>神戸大学大学院保健学研究科, <sup>3)</sup>京都橘大学看護学部

日本家族看護学会の国際交流委員会では、とくにアジア圏における家族看護学関係者との交流を推進する活動を行っている。本セッションは、香港特別行政区（香港）の家族看護学の現状と課題を共有し、日本と香港との国際交流を深化させることを企図している。以下に、香港の家族看護学の現状と課題を紹介する。

香港の世帯数は225万世帯（平均世帯人員3人）である（2007年末）。香港住民の大多数は、医院管理局と保健省から医療を受けている。医院管理局とは香港の全公立病院を管理する法的機関であり、保健省とは香港政府の健康問題に関する顧問機関で、医療方針の策定や人々の健康状態改善のための地域保健を担う政府機関である。

中国人は、個人の健康と病気を個人の問題というよりも家族全員の問題として捉える。家族が患者のケアに含まれることは、ヘルスプロモーション、慢性期・終末期ケア、精神疾患の場合ではよくみられる。必要に応じて家族員は、医師または看護師と入院時の患者の容態に関して話し合う。リハビリテーションユニットのような専門のユニットにおいては退院計画の作成に関わることがあり、家族は話し合いに招かれ、医師・看護師のみならず、栄養士・作業療法士などの医療従事者も含んだ医療チームと退院後のケアの計画を立てる。

保健省のファミリーヘルスサービスでは、子どもや女性のケアに家族員を積極的に関わらせている。31の母子健康センター（Maternal and Child Health Center）と3つの女性保健センター（Women Health Center）では、生後から5歳までの子どもと65歳以下の女性に対して、ヘルスプロモーションと疾病予防サービスを提供している。家族員の積極的な参加の例として、ユニバーサル・ペアレンティング・プログラム（Universal Parenting Program）があり、親になった者、祖母になった者、子どもが招かれる。そして、フォローアップが行われ、新生児の発達経過や発達上の特徴について説明され、面接でペアレンティング（parenting）と育児に関する具体的な事項が補助資料とともに両親に提供される。さらに、家族は、生後36ヶ月までの子どものペアレンティングと、必要なケアを充足するための8つのペアレンティング研修会にも出席できる。

教育に関しては、香港大学看護学部では、学部および修士課程で家族看護学教育課程を展開し、健康上の問題を体験している家族に対するケアのためのシステムアプローチを教授している。家族の健康の意味を探究・議論し、どのようにして家族の健康上の問題が家族機能を変化させるのかを理解するよう指導している。カルガリー家族アセスメントモデル（CFAM）とカルガリー家族介入モデル（CFIM）が導入されており、CFAMは家族機能とニーズをアセスメントするために、CFIMは家族への看護介入を展開するために用いられている。学生は、家族への介入技術を洗練するため、そしてカルガリーモデルの応用を練習するために、学生の職場の家族、友人や身内の家族を対象にして実践することを行っている。

研究に関しては、幸福で健康で調和のとれた家族の推進のための出産前ヘルスプロモーションプログラムを開発している。妊婦と配偶者、祖父母を対象として、この介入プログラムの有効性を評価するためにランダム化比較試験を計画している。両親と祖父母が新生児を迎えるという移行期に備えて、良好に機能する家族の相互作用様式を築くために、認知的な不協和アプローチ（cognitive dissonance approach）を用い介入するものである。対象者は母子健康センターで募集し、4週間の短期プログラムに参加してもらい、新生児のケアにおける各家族員の理想的な参加様式と家族構成について討議を行う。